

《キーワード》 顎口腔機能、咬合・咀嚼、老化、無歯顎補綴治療、全部床義歯

《担当者名》 越野 寿 豊下 祥史

【概要】

病的因子と老化因子が関与して全ての歯を喪失した無歯顎患者に対して、顎口腔系機能の回復と顔の外観の整形、さらには、QOLの維持・向上を目的として実施される無歯顎補綴治療に関して、診察、検査、診断の方法とその理論的根拠、治療計画の立案と治療方法、術後の管理と治療効果の評価法を習得する。なお、無歯顎患者の多くは高齢者であることから、老化学説や老化による顎口腔系の変化に関する理解が必要とされる。さらに、歯・筋・顎関節・末梢及び中枢神経からなる機能的咬合系に関する理解が必要である。特に、“Occlusion is a basic principle in dentistry.”といわれるように、補綴歯科治療には咬合に関する知識が不可欠であるため、下顎位・下顎運動に関する知識とその評価法を習得する必要がある。

【学習目標】

1. QOLと顎口腔機能との関係について説明できる。
2. 無歯顎補綴治療のガイドラインを説明できる。
3. 下顎運動測定装置により顎機能を分析できる。
4. 咬合の正常像及び異常像を説明できる。
5. 直接的及び間接的な各種咀嚼機能評価法を説明できる。
6. 老化の特徴と、老化による顎口腔系の変化を説明できる。
7. 機能的咬合系について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	咬合・咀嚼機能と全身の機能との相互依存的関係		越野 寿 豊下 祥史
2	歯及びその周囲組織の疾患・欠損、咬合・顎関節・筋の異常、補綴装置の破損・不具合に関する診察、検査、治療計画のガイドライン		越野 寿 豊下 祥史
3	下顎運動測定装置及び心音マイク付き超音波診断装置を用いたの下顎位・下顎運動・舌運動・嚥下運動の記録と分析		越野 寿 豊下 祥史
4	直接的及び間接的な各種咀嚼機能評価法の実際		越野 寿 豊下 祥史
5	全部床義歯における各種臼歯部人工歯配列法		越野 寿 豊下 祥史
6	無歯顎補綴治療における各種印象採得法		越野 寿 豊下 祥史

【評価方法】

出席状況、提出物

【備考】

教科書 : 授業中に指示する。

参考書 : 授業中に指示する。

【学習の準備】

日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会の診療ガイドラインを検索し、該当するガイドラインに目を通しておくこと。